

第4次農林水産業元気創造戦略の達成状況(令和7年10月末時点)

I 共通目標・共通目標指標

ウイズ・ポストコロナを見据え、本県農林水産業における新たな活力を創造していくため、引き続き、これまでの高付加価値化やブランド化に向けた取組みを推進していくとともに、本県農林水産物の、県内外、さらには国外への販売を拡大していく取組みを通して、食料供給県としての本県農林水産業のさらなる発展と生産者の所得向上を目指す。

【共通目標】

県民・国民のいのちをつなぐ食料供給県やまがたのさらなる発展

【共通目標指標】

生産額ベース 食料自給率 200%超 (参考) 計画策定時現状値: 181% (H30年度)
(県民全体の食料消費額の2倍の金額を生産し、売り上げ、国内外に供給)

分野別の5つの基本戦略に基づくプロジェクト方式で推進
63のプロジェクトと83の数値目標を設定

II 5つの基本戦略と63のプロジェクト

【基本戦略1】意欲ある多様な担い手の育成・確保 《人づくり》

農業の担い手育成・確保支援、専門職大学設置、農業トップランナー育成・発展、スマート農業普及加速、農業経営セーフティネット強化などの11プロジェクト

【基本戦略2】活気あるしなやかな農村の創造 《農村づくり》

水田農業の低コスト化に向けた基盤整備促進、次世代人材の定着に向けた園芸団地形成推進、災害等に強い農業、農村づくり、元気な農村(むら)づくり総合支援、中山間・棚田地域持続的農地保全・振興、持続可能な農業生産推進などの8プロジェクト

【基本戦略3】魅力ある稼げる農林水産業の追求 《魅力づくり》

県産米ブランド化推進プロジェクト、山形さくらんぼ世界一ブランド強化、山形えだまめ日本一产地化、地域で支える畜産基盤強化、やまがたの和牛増頭・評価向上、6次産業化推進基盤強化、「おいしい山形」推進、県産農産物等輸出拡大などの30プロジェクト

【基本戦略4】「やまがた森林ノミクス」の加速化 《森林づくり》

林業を支える人材育成と事業体強化、県産木材安定供給推進、主伐・再造林推進、県産木材の加工流通体制強化と付加価値向上、県産木材の利用促進などの9プロジェクト

【基本戦略5】水産業の成長産業化 《海川づくり》

持続可能な海面漁業生産基盤整備、海面漁業の成長産業化に向けた経営基盤強化など5プロジェクト

III 達成状況

◎ 共通目標指標

■ 実施期間の3年目である令和5年度の生産額ベース食料自給率は167%となっている。食料生産額は横ばいであるのに対し、輸入食料の値上がりで食料支出額が増加しており、平成30年度の181%と比べて低くなっている。

◎ 評価指標(KPI)

■ 18項目のうち、令和6年度までの実績値が判明しているのが6項目、令和5年(度)までの実績値が判明しているのが11項目、令和4年(度)までの実績値が判明しているのが1項目となっている。5項目で直近の実績値が目標を「達成」、4項目で「概ね達成」となっている。(達成・概ね達成の割合は50%)

◎ プロジェクト目標指標

■ 83項目のうち、目標年の実績値が判明しているのは59項目となっている。23項目で直近の実績値が目標を「達成」、25項目で「概ね達成」となっている。(達成・概ね達成の割合は58%)

表 評価指標(KPI)の達成状況 〔斜体は直近値〕
〔目標値に対する実績値の評価: ◎:達成 ○:概ね達成(80%以上かつ策定時より上昇・改善) △:達成・未達成〕

評価指標(KPI)	現状値(策定時)	目標値(R6)	実績値(R6)	評価
基本戦略1 新規就農者数の東北における順位	1位(R2)	1位	1位	◎
	スマート農業の取組件数(累計)	77件(R1)	150件	254件
基本戦略2 農地整備実施地区の大区画整備面積(累計)	3,560ha(H30)	4,700ha	4,589ha	○
	農業産出額	2,480億円(H30)	2,591億円(R5)	2,441億円(R5)
うち 米による産出額	835億円(H30)	865億円(R5)	739億円(R5)	△
うち 果実による産出額	709億円(H30)	723億円(R5)	743億円(R5)	◎
うち 野菜による産出額	472億円(H30)	480億円(R5)	418億円(R5)	△
うち 畜産による産出額	361億円(H30)	413億円(R5)	441億円(R5)	◎
農業者当たり産出額	639万円(H30)	718万円(R5)	733万円(R5)	◎
生産農業所得の東北における順位	2位(H30)	2位(R5)	3位(R5)	△
6次産業化付加価値額	581億円(H30)	625億円(R4)	559億円(R4)	△
県産農産物の輸出額	9億円(H30)	15億円	13.7億円	○
基本戦略4 林業産出額	82億円(H30)	92億円(R5)	82億円(R5)	○
	うち きのこ類等による産出額	52億円(H30)	59億円(R5)	40億円(R5)
県産木材供給量	53.5万m ³ (R1)	70万m ³	55.1万m ³	△
再造林率	64%(R1)	100%	90%	○
基本戦略5 海面漁業・養殖業による産出額	22億円(H30)	32億円(R5)	20億円(R5)	△
	経営体当たり海面漁業生産額	695万円(H30)	824万円(R5)	631万円(R5)

第4次農林水産業元氣創造戦略 評価指標・目標指標達成状況一覧(令和7年10月末日現在)

令和3年達成状況集計	令和4年達成状況集計	令和5年達成状況集計	最終達成状況集計																						
遂成度	評価指標(KPI)			目標指標(目標が設定されている項目数:78)			遂成度	評価指標(KPI)			目標指標(目標が設定されている項目数:80)			遂成度	評価指標(KPI)			目標指標(項目数:80)							
	項目数	割合	判断分	項目数	割合	判断分		項目数	割合	判断分	項目数	割合	判断分		項目数	割合	判断分								
遂成	3	16.7%	16.1%	27.8%	33	42.3%	42.3%	29	36.3%	36.3%	55	22.2%	22.2%	55.8%	5	27.8%	29.4%	58.8%	24	29.3%	29.3%	84.6%			
概ね達成	2	11.1%	11.1%	19	24.4%	24.4%		26	32.5%	32.5%	28	33.3%	33.3%		3	16.7%	33.3%	50.0%	17	20.5%	28.8%	54.2%			
遅れ・未達成	13	72.2%	72.2%	26	33.3%	33.3%		25	31.3%	31.3%	8	44.4%	44.4%		7	38.9%	41.2%		29	35.4%	35.4%				
計	18	100.0%		78	100.0%			80	100.0%		17	94.4%			82	102.5%			59	73.8%					
未公表等	0	0.0%		0	0.0%			0	0.0%		未公表等	1	5.6%		0	0.0%			12	66.7%		24	28.9%		
No.	評価指標(KPI)	単位	現状	基準	R3年 目標	R3年 実績	達成率	達成度	R3年 達成・未達成の理由	R4年 目標	R4年 実績	達成率	達成度	R4年 達成・未達成の理由	R5年 目標	R5年 実績	達成率	達成度	R5年 達成・未達成の理由	最終目標	年・年度	R6年 実績	達成率	達成度	R6年 達成・未達成の理由
評価指標(KPI)																達成度				達成度					
基本戦略1 意欲ある多様なない手の育成・確保																達成度				達成度					
1 新規就農者数の東北における順位	位	1	R2年度	1	1	100%	達成	勤務付け放題から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによるよ。	1	1	100%	達成	勤務付け放題から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより目標は達成。	1	1	100%	達成	勤務付け放題から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより目標は達成。	1	R6年度	1	100%	達成	勤務付け放題から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより目標は達成。	
2 スマート農業の取組件数(累計)	件	77	R1年度	105	112	107%	達成	県内各地域で技術の実証・展示を行ったことにより、取り組む農業者等が増加し、目標は達成。	120	134	112%	達成	技術の実証・展示を行ったこと、国のスマート農業導入奨励事業により、取組み生産者が増加し目標は達成。	135	211	156%	達成	技術の実証・展示や農業用機械・機器等の導入に対する認定申請等の活動により、目標を大きく上回って達成。	150	R6年度	254	169%	達成	技術の実証・展示や農業用機械・機器等の導入に対する認定申請等の活動により、目標を大きく上回って達成。	
基本戦略2 活気あるしなやかな農村の創造																達成度				達成度					
3 農地整備実施地区の大区面積(面積)	ha	3,560	H30年度	4,130	4,108	99.5%	概ね達成	令和3年度に実施した区画整理工事のうち、約7割を大区画面積として整備し、目標は概ね達成。	4,320	4,287	99%	概ね達成	令和4年度に実施した区画整理工事のうち約7割を大区画面積として整備し、目標は概ね達成。	4,510	4,413	98%	概ね達成	令和5年度に実施した区画整理工事のうち約6割を大区画面積として整備し、目標は概ね達成。	4,700	R6年度	4,589	98%	概ね達成	令和6年度に実施した区画整理工事のうち約8割を大区画面積として整備し、目標は概ね達成。	
基本戦略3 魅力ある稼げる農林水産業の追求																達成度				達成度					
4 農業生出額	億円	2,480	H30年	2,547	2,337	92%	遅れ・未達成	前年より米及び果樹の生出額が減少したこと(171億円の目標となり)、目標は未達成。	2,571	2,394	93%	遅れ・未達成	前年より米及び果樹の生出額が増加し、前年より57億円の目標となつたものの目標は未達成。	2,591	2,441	94%	遅れ・未達成	前年より米及び果樹の生出額が増加し、前年より47億円の目標となつたものの目標は未達成。	2,620	R6年	未公表			前年より米及び果樹の生出額が増加し、前年より47億円の目標となつたものの目標は未達成。	
5 米生出額	億円	835	H30年	855	701	82%	遅れ・未達成	令和3年度の米生産は、生産指標は104であったが、需要減少に伴う価格低下から生出額は減少し、目標は未達成。	860	689	80%	遅れ・未達成	主食用米の作付面積が減少して稲作面積が少く、令和4年度米生産金額(JA米販資金から支給料金を差し引いた販賣額)が前年より高くなつたものの生出額は減少し、目標は未達成。	865	739	85%	遅れ・未達成	米生産の主食用米の作付面積が減少して稲作面積が少なく、令和4年度米生産金額(JA米販資金から支給料金を差し引いた販賣額)が前年より高くなつたものの生出額は減少し、目標は未達成。	868	R6年	未公表			米生産が空き地に移行して令和4年度米生産金額(JA米販資金から支給料金を差し引いた販賣額)が前年より高くなつたものの生出額は増加したものの、主食用米の作付面積が減少して収穫量が少く、目標は未達成。	
6 果実生出額	億円	709	H30年	714	694	97%	遅れ・未達成	4月の霜害と開花期の天候不良で、さくらんぼ、りんごの収穫量減少により目標は未達成。	719	766	107%	達成	生産者の高品質・安定生産により収穫量が回復し、販売価格が高水準で推移したため目標は達成。	723	743	103%	達成	生産者の高品質・安定生産により収穫量が回復し、販売価格が高水準で推移したため目標は達成。	727	R6年	未公表			収穫量は、夏場の高水嵩雨等の影響のため、りんご、西瓜などみどりみかわは減少。多くの樹種で減少したものの、販売価格が高水準であつたため、目標は未達成。	
7 野菜生出額	億円	472	H30年	474	455	96%	遅れ・未達成	主要果菜類の品質を中心に、高品質・安定生産により収穫量減少により目標は未達成。	477	426	89%	遅れ・未達成	主要果菜類の品質を中心に、9月の集中豪雨など生育期間中の天候不順等の影響により生産量が減少したため、目標は未達成。	480	418	87%	遅れ・未達成	主要果菜類の品質を中心に、9月の集中豪雨など生育期間中の天候不順等の影響により生産量が減少したため、目標は未達成。	485	R6年	未公表			収穫量は、夏場の高水嵩雨等の影響のため、りんご、西瓜などみどりみかわは減少。多くの樹種で減少したため、販売価格が高水準であつたため、目標は未達成。	
8 畜産生出額	億円	361	H30年	396	392	99%	概ね達成	規模拡大による飼育頭数の増加と生産性の向上により目標は概ね達成。	404	411	102%	達成	需要回復に伴う牛乳と牛の販売単価向上と、豚の販売単価増加により目標を達成。	413	441	107%	達成	需要回復に伴う牛乳と牛の販売単価向上と、豚の販売単価増加により目標を達成。	423	R6年	未公表			県和牛の出荷頭数の増加、豚の肉牛価格の上昇及び頭数単価の上昇に伴う販売単価増加により目標は達成。	
9 農業者当たり生出額	万円	639	H30年	670	612	91%	遅れ・未達成	前年より農業生出額が減少したことで減額し、目標は未達成。	693	665	96%	概ね達成	前年より農業生出額が増加したことで増額となり、目標は概ね達成。	718	733	102%	達成	前年より農業生出額が増加したことで増額となり、目標を達成。	745	R6年	未公表			前年より農業生出額が増加したことで増額となり、目標を達成。	
10 生産農業所得の東北における順位	位	2	H30年	2	3	—	遅れ・未達成	農業生出額の減少に伴い生産農業所得が減少した。順位は前年と同じであり、目標は未達成。	2	3	—	遅れ・未達成	農業生出額は増加したものの、資材価格等の高騰で生産農業所得は減少した。順位は前年と同じであり、目標は未達成。	2	3	—	遅れ・未達成	農業生出額が増加するに伴い生産農業所得も増加したものの、順位は前年と同じであり、目標は未達成。	1	R6年	未公表	—		農業生出額が増加するに伴い生産農業所得も増加したものの、順位は前年と同じであり、目標は未達成。	
11 6次産業化付加価値額	億円	581	H30年	613	651	106%	達成	食料品流通業や飲料酒製造業等の付加価値額が増加したことにより目標は達成。	625	559	89%	遅れ・未達成	商品販売の支援やマッチング会等を行ったものの、畜産食料品製造業は減少し始めたため、目標は未達成。	637	未公表					650	R6年	未公表			商品販売の支援やマッチング会等を行ったものの、畜産食料品製造業は減少し始めたため、目標は未達成。
12 県産農産物の輸出額	億円	9	H30年度	12	9	75%	遅れ・未達成	令和3年度は中国の米生産量が特に西廻したことで輸出額は減少しました。輸出額は過去2年目以降も減少になつたが生産量の高い牛肉で伸び悩み目標を達成。	13	10.5	81%	概ね達成	令和4年度はりんご等の輸出量が増加したことから輸出量、輸出額ともに過去最高を更新し、目標は概ね達成。	14	11.5	82%	概ね達成	令和5年度は「米」の輸出量が増加したことから輸出量、輸出額ともに過去最高を更新し、目標は概ね達成。	15	R6年度	13.7	91%	概ね達成	令和6年度は「米」の輸出量が増加したことから輸出量、輸出額ともに過去最高を更新し、目標は概ね達成。	
基本戦略4 「やまがた森林ノミクス」の加速化																達成度				達成度					
13 林業生出額	億円	82	H30年	88	69	79%	遅れ・未達成	「ウッドショック」の影響による木材価格の上昇により、生産者は減額が大きくなり、目標は未達成。	90	87	97%	概ね達成	「ウッドショック」の影響による木材価格の高止まりが続いたことにより、製材用、集成材の減額が増加したことにより、目標は達成。	92	82	89%	概ね達成	「ウッドショック」の影響による木材価格の高止まりが続いたことにより、目標は概ね達成。	95	R6年	未公表			「ウッドショック」の影響による木材価格の高止まりが続いたことにより、目標は概ね達成。	
14 きのこ類等生出額	億円	52	H30年	56	38	67%	遅れ・未達成	生産者の高齢化や生産競争の激化により、生産量が減少したことにより、目標は未達成。	57	37	65%	遅れ・未達成	生産者の高齢化や生産競争の激化により、生産量が減少したことにより、目標は未達成。	59	40	68%	遅れ・未達成	生産者の高齢化・減少や生産競争の激化により、生産量が減少したことにより、目標は未達成。	60	R6年	未公表			生産者の高齢化・減少や生産競争の激化により、生産量が減少したことにより、目標は未達成。	
15 県産木材供給量	万㎥	53.5	R1年	60	52.7	88%	遅れ・未達成	R2/1コロナの影響で木材の流通が停滞し、製材所間での取引が減少したことにより、R3/R4の木材供給量が清流込み、目標は未達成。	63	58	92%	概ね達成	ウッドショックにより、県産木材需要が高まることにより、製材用、集成材用の需要が増加したことで、R4/5生産量が増加した。目標は概ね達成。	67	59.1	88%	概ね達成	高性能林業操縦機の導入により林業効率化・生産性が向上したため、木材生産量は増加し、目標は概ね達成。	70	R6年	55.1	79%	遅れ・未達成	高性能林業操縦機の導入により林業効率化・生産性が向上したため、木材生産量は減少し、目標は未達成。	
16 再造林率	%	64	R1年度	100	72	72%	遅れ・未達成	再造林面積(分子)は伸びたが、伐根率を超える山林の削除率(分母)がウッドショックの影響等で急増したことにより、目標は未達成。	100	76	76%	遅れ・未達成	再造林の支援強化等により再造林面積が増加し、目標は概ね達成。	100	88	88%	概ね達成	再造林の支援強化等により再造林面積が増加し、目標は概ね達成。	100	R6年度	90	90%	概ね達成	再造林面積は横ばいであったものの再造林率は上昇し、目標は概ね達成。	
基本戦略5 水産業の成長産業化																達成度				達成度					
17 渔業生出額(海面漁業・養殖業)	億円	22	H30年	28	22	79%	遅れ・未達成	令和3年は全国的に生産資源(サケ、イカなど)が不足し、本邦において主要生産種であるルリメイク(サケ、タラ、ハバハバ)の漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	30	24	80%	概ね達成	県外によるスルメイカの水揚漁が一定量あったことにより目標は達成。	32	20	63%	遅れ・未達成	本県の主力魚種であるタラ・ハバハバの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	35	R6年	未公表			本県の主力魚種であるタラ・ハバハバの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	
18 経営体当たり海面漁業生産額	万円	695	H30年	772	617	80%	遅れ・未達成	令和3年は全国的に生産資源(サケ、イカなど)が不足し、本邦において主要生産種であるルリメイク(サケ、タラ、ハバハバ)の漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	798	621	78%	遅れ・未達成	本県の主力魚種であるスルメイカ(ハタハタ)の漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	824	631	77%	遅れ・未達成	本県の主力魚種であるスルメイカ(ハタハタ)の漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	850	R6年	未公表			本県の主力魚種であるスルメイカ(ハタハタ)の漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	

No.	評価指標(KPI)	単位	現状	基準	R3年 目標	R3年 実績	達成率	達成度	R3年 達成・未達成の理由	R4年 目標	R4年 実績	達成率	達成度	R4年 達成・未達成の理由	R5年 目標	R5年 実績	達成率	達成度	R5年 達成・未達成の理由	最終 目標	年・年度	R6年 実績	達成率	達成度	R6 達成・未達成の理由	
プロジェクト目標指標																										
基本戦略1 意欲ある多様な扱い手の育成・確保																										
①人材育成・確保																										
(1) 新規就農者数(4年間の累計)																										
(1)	新規就農者数(4年間の累計)	人	1,354	H29~R2 年度	360	357	99%	概ね達成	勤務受け付段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。	720	715	99%	概ね達成	勤務受け付段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより目標は達成。	1,090	1,093	100%	達成	勤務受け付段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより目標は達成。	1,460	R6年度	1,476	101%	達成	勤務受け付段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより目標は達成。	
(2)	無料職業紹介所等におけるマッチング数	件	585	R2年度	600	397	66%	遅れ・未達成	さくらんぼでは求人票に「やりがいを感じる」、「自分には何をやるか」などは口の影響による影響等で一時的で求人票が増加したりが、令和3年度は宮崎県内において事例が見られなかった。	650	392	60%	遅れ・未達成	さくらんぼでは求人票に「やりがいを感じる」、「自分には何をやるか」などは口の影響による影響等で一時的で求人票が増加したりが、令和3年度は宮崎県内において事例が見られなかった。	700	400	57%	遅れ・未達成	さくらんぼでは求人票に「やりがいを感じる」、「自分には何をやるか」などは口の影響による影響等で一時的で求人票が増加したりが、令和3年度は宮崎県内において事例が見られなかった。	750	R6年度	370	49%	遅れ・未達成	さくらんぼでは求人票に「やりがいを感じる」、「自分には何をやるか」などは口の影響による影響等で一時的で求人票が増加したりが、令和3年度は宮崎県内において事例が見られなかった。	
(3)	農福連携に取り組む経営体等	組織	59	R2年度	70	85	121%	達成	農業第一と社会との相互理解を進めため、農業体験会や地場観察、研究会等の取組みを実施していることによる。	80	94	118%	達成	農業第一と社会との相互理解を進めため、農業体験会や地場観察、研究会等の取組みを実施していることによる。	90	108	120%	達成	農業第一と社会との相互理解を進めため、農業体験会や地場観察、研究会等の取組みを実施していることによる。	100	R6年度	116	116%	達成	農業第一と社会との相互理解を進めため、農業体験会や地場観察、研究会等の取組みを実施していることによる。	
(4)	しあわせアグリビジネスプラン件数(累計)	件	76	R2年度	84	86	102%	達成	次世代リーダー育成セミナーとして「アグリウーマン塾」を開催し、講演、演習、個別相談を組み合わせて、女性農業者の経営改善、経営多面サポートを行い、目標は達成。	92	97	105%	達成	次世代リーダー育成セミナーとして「アグリウーマン塾」を開催し、講演、演習、個別相談を組み合わせて、女性農業者の経営改善、経営多面サポートを行い、目標は達成。	100	115	115%	達成	次世代リーダー育成セミナーとして「アグリウーマン塾」を開催し、講演、演習、個別相談を組み合わせて、女性農業者の経営改善、経営多面サポートを行い、目標は達成。	108	R6年度	127	118%	達成	次世代リーダー育成セミナーとして「アグリウーマン塾」を開催し、講演、演習、個別相談を組み合わせて、女性農業者の経営改善、経営多面サポートを行い、目標は達成。	
(5)	東北農林専門職大学の令和6年4月開学	—	—	—	—	—	—	—	認可申請	認可申請	—	達成	令和6年4月の開学に向け、令和4年10月20日に文部科学省へ大学設置認可申請書を提出したことにより目標は達成。	認可申請	認可申請	—	達成	令和6年4月の開学に向け、文部科学省から設置が認可されたことにより目標は達成。	開学(入学者40名)	R6年	開学(入学者43名)	—	達成	令和6年4月に開学したことにより目標は達成。		
②担い手・経営体育成																										
(6)	農産物販売額1,000万円以上の経営体数	経営体	3,442	R2年	3,600	3,300	92%	遅れ・未達成	令和2年7月の暴雨被害により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。	3,750	3,700	99%	概ね達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用により、目標は概ね達成。	3,900	3,300	85%	遅れ・未達成	令和4年9月の大雨による被害等により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。	4,050	R6年	3,200	79%	遅れ・未達成	令和5年の夏季高溫による被害等により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。	
(7)	農産物販売額3,000万円以上の経営体数	経営体	631	R2年	659	600	91%	遅れ・未達成	令和2年7月の暴雨被害により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。	686	700	102%	達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用により、目標を達成。	713	600	84%	遅れ・未達成	令和4年8月の大雪による被害等により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となりました。	740	R6年	700	95%	概ね達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用により、目標を達成。	
(8)	農産物販売額1億円以上の経営体数	経営体	122	R2年	128	100	78%	遅れ・未達成	令和2年7月の暴雨被害により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。	133	100	75%	遅れ・未達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用により、目標は未達成。	138	100	72%	遅れ・未達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用により、目標は未達成。	143	R6年	100	70%	遅れ・未達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用により、目標は未達成。	
(9)	新規就農者受入れ協議会等の設置数	組織	15	R2年度	20	15	75%	遅れ・未達成	市町村へ新規就農者受け入れ体制構築に係る先行事例や良好実績の紹介、県独自事業による協議会への連携情報提供の不対応。	25	15	60%	遅れ・未達成	市町村へ新規就農者受け入れ体制構築に係る先行事例や良好実績の紹介、県独自事業による協議会への連携情報提供の不対応。	30	15	50%	遅れ・未達成	令和4年度から協議会設立に対する補助事業を開始し、新規就農する経営者へ向けて設立されたがまだ設立には至らず、目標は未達成。	35	R6年度	15	43%	遅れ・未達成	令和5年度から協議会設立に対する補助事業を開始し、新規就農する経営者へ向けて設立されたがまだ設立には至らず、目標は未達成。	
(10)	女性新規就農者数	人	56	R2年度	60	94	157%	達成	勤務受け付段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。また、農業法人の採用に伴い女性の雇用が増え、労働環境整備が図られたことによる。	70	82	117%	達成	勤務受け付段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。また、農業法人の人材等で、女性の働きやすいう労働環境整備が図られたことにより目標は達成。	85	86	101%	達成	勤務受け付段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。また、農業法人で、女性の働きやすいう労働環境整備が図られたことにより目標は達成。	100	R6年度	93	93%	概ね達成	勤務受け付段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。また、農業法人で、女性の働きやすいう労働環境整備が図られたことにより目標は概ね達成。	
(11)	農業法人数	法人	752	R2年度	780	771	99%	概ね達成	山形県農業経営相談所及び各合意支弁の農業経営相談センターを中心に、農業法人等の登録者数が増加したことにより目標は概ね達成。	820	815	99%	概ね達成	山形県農業経営相談所及び各合意支弁の農業経営相談センターを中心に、農業法人等の登録者数が増加したことにより目標は概ね達成。	860	841	98%	概ね達成	山形県農業経営相談センター及び各合意支弁の農業経営相談センターを中心に、農業法人等の登録者数が増加したことにより目標は概ね達成。	900	R6年度	860	96%	概ね達成	山形県農業経営相談センター及び各合意支弁の農業経営相談センターを中心に、農業法人等の登録者数が増加したことにより目標は概ね達成。	
(12)	担い手への農地耕種率	%	66.4	R1年度	75	69	92%	概ね達成	県内4地域の地域支援チームを中心に、市町村の拠点とする課題に対応し、追跡・連携の取組みを進めてきたことにより、目標は概ね達成。	80	70	88%	概ね達成	県内4地域の地域支援チームを中心に、市町村の拠点とする課題に対応し、追跡・連携の取組みを進めてきたことにより、目標は概ね達成。	85	71.1	84%	概ね達成	県内4地域の地域支援チームを中心に、市町村の拠点とする課題に対応し、追跡・連携の取組みを進めてきたことにより、目標は概ね達成。	90	R6年度	未公表				
(13)	農地中間管理機関農地整備事業による農地整備面積(累計)	ha	3	R1年度	80	66	83%	概ね達成	農地中間管理機関農地整備事業による農地整備面積(累計)は約3haである。	150	140	93%	概ね達成	農地中間管理機関農地整備事業による農地整備面積(累計)は約3haである。	220	189	88%	概ね達成	農地中間管理機関農地整備事業による農地整備面積(累計)は約3haである。	300	R6年度	234	78%	遅れ・未達成	地元及び官庁協議等による正確設計に時間を要し、事業者も挙げられていません。令和7年度以降も継続して実施し農地整備を実施してきましたが目標は遅れ・未達成。	
(14)	スマート農業の取組件数(累計)	件	77	R1年度	105	112	107%	達成	県内各地域での技術の実証を行ったことにより、県のスマート農業導入補助金事業により取組件数が増加しました。	120	134	112%	達成	技術の実証・展示や農業用機械・機器等の導入に対する県の補助事業の活用により事業推進を図っていった。事業の周知とともに、機器導入補助金の資金や県内の後援農家の紹介により面積向上に繋がりました。	135	211	156%	達成	技術の実証・展示や農業用機械・機器等の導入に対する県の補助事業の活用により事業推進を図っていった。事業の周知とともに、機器導入補助金の資金や県内の後援農家の紹介により面積向上に繋がりました。	150	R6年度	254	169%	達成	技術の実証・展示や農業用機械・機器等の導入に対する県の補助事業の活用により、目標を大きく上回って達成。	
(15)	新農業情報ポータルサイトのSNSの登録利用者数	人	—	R2年度	サイト稼働	サイト稼働	—	達成	ポータルサイトは実現したがFacebookへの登録数が目標を下回りました。Twitter、YouTubeのアカウントを開設しました。	150	100	67%	遅れ・未達成	ポータルサイト本体の会員登録者は頻繁に増加しているが、SNSの独自コンテンツの登録者が目標を下回りましたため達成しなかったため、目標は未達成。	350	156	45%	遅れ・未達成	ポータルサイト本体の会員登録者は頻繁に増加しているが、SNSの独自コンテンツの登録者が目標を下回りましたため達成しなかったため、目標は未達成。	550	R6年度	190	35%	遅れ・未達成	ポータルサイト本体のコンテンツ登録者数とSNSにおける情報発信に増加していくものの、SNS登録者は微増に留まりました。	
(16)	農業経営のセーフティネットの加入推進組織の立ち上げ	—	—	R2年度	設立	設立	—	達成	行政、農業関係団体、各制度の実業主体等で構成する行政・農業関係団体セーフティネット加入促進組織を立ち上げました。また、県内4地域に区域連絡会を開設しました。	—	—	—	達成	行政、農業関係団体、各制度の実業主体等で構成する行政・農業関係団体セーフティネット加入促進組織を立ち上げました。また、県内4地域に区域連絡会を開設しました。	—	—	—	達成	行政、農業関係団体、各制度の実業主体等で構成する行政・農業関係団体セーフティネット加入促進組織を立ち上げました。また、県内4地域に区域連絡会を開設しました。	設立	R3年度	設立	—	達成	行政、農業関係団体、各制度の実業主体等で構成する行政・農業関係団体セーフティネット加入促進組織を立ち上げました。また、県内4地域に区域連絡会を開設しました。	
(17)	青色申告者に占める収入保険の加入割合	%	17.8	R3年度	—	—	—	達成	青町村と協議による掛替保険料の助成事業について、令和3年青町村へ予算化され、加入を促進したことにより目標を達成。	24.6	33	134%	達成	タスクチームの取組みで收入保険への加入促進活動が実行に行われ、農業者の意識リスクへの意識が高まり実行が進んだため、目標は達成。	35.0	35.8	102%	達成	タスクチームの活動により、農業者の意識リスクへの意識が高まり実行が進んだため、目標は達成。	35.0	R6年度	37.1	106%	達成	地域タスクチームの活動により、加入促進活動を行ったため、目標を達成。	
基本戦略2 活気あらしなやかな農村の創造																										
③基盤強化・強靭化																										
(16)	農地整備実施地区の大区画整備面積(累計)	ha	3,560	H30年度	4,130	4,108	99.5%	概ね達成	令和3年度に実施した区画整理工事のうち、約7割を大区画は堀として整備し、目標は概ね達成。	4,320	4,287	99%	概ね達成	令和4年度に実施した区画整理工事のうち約7割を大区画は堀として整備し、目標は概ね達成。	4,510	4,413	98%	概ね達成	令和5年度に実施した区画整理工事のうち約8割を大区画は堀として整備し、目標は概ね達成。	4,700	R6年度	4,589	98%	概ね達成	令和6年度に実施した区画整理工事のうち約8割を大区画は堀として整備し、目標は概ね達成。	
(19)	基盤整備を実施した農地での扱い手に集約化される割合(累計)	%	41	H30年度	84	83.7	99.6%	概ね達成	農地整備事業を契機に、水田における扱い手への農地集約・集約化が進み、目標は概ね達成。	86	84.0	98%	概ね達成	農地整備事業を契機に、水田における扱い手への農地集約・集約化が進み、目標は概ね達成。	88	84.8	96%	概ね達成	農地整備事業を契機に、水田における扱い手への農地集約・集約化が進み、目標は概ね達成。	90	R6年度	85.3	95%	概ね達成	農地整備事業を契機に、水田における扱い手への農地集約・集約化が進み、目標は概ね達成。	
(20)	大規模園芸団地の面積(累計)	ha	20	R2年度	22	21	95%	概ね達成	田舎の条件を厳しくしたことにより、これまで田舎化を推進していなかった地域が取り組みなくなり、1田舎地化が進まっている。	24	21	88%	概ね達成	資材価格高騰の影響等により、1田舎地の形成に留まっている。	26	24	92%	概ね達成	資材価格高騰の影響等により、1田舎地の形成に留まっている。	28	R6年度	29	104%	達成	先行投資型園芸団地の建設が進み、令和6年度は5団地地盤整備が実施された。	
(21)	水田畑地化整備面積(累計)	ha	2,580	R1年度	3,130	2,922	93%	概ね達成	高収益作物(園芸作物等)への転換を後押すしする排水改良や地下水かんがい導入等の水田の畠地化・汎用化による農地整備を支援し、目標は概ね達成。	3,350	3,030	90%	概ね達成	高収益作物(園芸作物等)への転換を後押すしする排水改良や地下水かんがい導入等の基盤整備を推進し、目標は概ね達成。	3,630	3,096	85%	概ね達成	高収益作物(園芸作物等)への転換を後押すしする排水改良や地下水かんがい導入等の基盤整備を推進し、目標は概ね達成。	4,000	R6年度	3,125	78%	遅れ・未達成	農地の水田化整備を重点的に実施したため、進歩がやや底じた。令和7年度以降も下からがいいる基盤整備を推進し、高収益作物(園芸作物等)の導入促進を図る。	
(22)	果樹園地の面積(累計)	ha	0	R3年度	—	—	—	達成	事業初年度生産者への事業周知がまだ十分でなく、また、団地化に向けた地域の合意形成や農地の選定・確保に時間がかかるため。	20	0	0%	遅れ・未達成	事業初年度生産者への事業周知がまだ十分でなく、また、団地化に向けた地域の合意形成や農地の選定・確保に時間がかかるため。	40	9.4	24%	遅れ・未達成	事業初年度生産者への事業周知がまだ十分でなく、また、団地化に向けた地域の合意形成や農地の選定・確保に時間がかかるため。	60	R6年度	24.9	42%	遅れ・未達成	事業初年度生産者への事業周知がまだ十分でなく、また、団地化に向けた地域の合意形成や農地の選定・確保に時間がかかるため。	
(23)	優先する防災重点農業用たんぱく質改良池の対策実施率	%	30.5	R2年度	42	45.1	107%	達成	防災・減災・国土強靭化のための5か年計画で池化対策をより重点的に受け入れる計画を受け、計画に沿った対策実施が実施できた。	55	53	96%	概ね達成	防災・減災・国土強靭化のための5か年計画で池化対策をより重点的に受け入れる計画を受け、計画に沿った対策実施が実施できた。	67	56	84%	概ね達成	防災・減災・国土強靭化のための5か年計画で池化対策をより重点的に受け入れる計画を受け、計画に沿った対策実施が実施できた。	80	R6年度	62	78%	遅れ・未達成	事業実施に向けた困難な問題が発生したため、対策実施が実施できていない。	
(24)	鳥獣による農作物被害額	百万円	464																							

No.	評価指標(KPI)	単位	現状	基準	R3年	R3年	R3	R4	R4年	R5	R6年	R6年												
	プロジェクト目標指標		年/年度	目標	実績	達成率	達成度	目標	実績	目標	実績	達成率												
(4)地域活性化																								
(25)県の支援による活動力ある地 域づくりの実践件数(H26か らの累計)	件	27	R2年度	39	43	110%	達成	中山間地域において、農業の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いをきっかけに、行動計画に掲げた活動内容を実現する地域が増加していくことにより、目標は達成。	51	57	112%	達成	中山間地域において、農業の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いをきっかけに、行動計画に掲げた活動内容を実現する地域が増加していくことにより、目標は達成。	63	79	125%	達成	中山間地域において、集落の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いをきっかけに、行動計画に掲げた活動内容を実現する地域が増加していくことにより、目標は達成。	75	R6年度	91	121%	達成	中山間地域において、集落の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いをきっかけに、行動計画に掲げた活動内容を実現する地域が増加していくことにより、目標は達成。
(26)中山間地域の農地保全取 組横	ha	8,434	R2年度	8,540	8,872	104%	達成	協定農地用の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いへの支援や、農地管理の省力化支援等、農地保全取組横断的持続・拡大に向けた取組を実現する地域を達成。	8,640	8,992	104%	達成	協定農地用の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いへの支援や、農地管理の省力化支援等、農地保全取組横断的持続・拡大に向けた取組を実現する地域を達成。	8,740	9,011	103%	達成	協定農地用の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いへの支援や、農地管理の省力化支援等、農地保全取組横断的持続・拡大に向けた取組を実現する地域を達成。	8,850	R6年度	9038	102%	達成	協定農地用の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いへの支援や、農地管理の省力化支援等、農地保全取組横断的持続・拡大に向けた取組を実現する地域を達成。
(27)棚田地域振興法における指 定田地地域振興活動計画 の実施地区数(累計)	地区	3	R2年度	6	5	83%	概ね達成	山形市及び庄内町の2市2町が実施計画策定に着手し、令和3年1月に実施計画を行ったものの、地域の合意が得られない申請に至らなかつたため。	9	5	56.0%	遅れ・未達成	活動計画策定に着手したものの、申請に至らなかつたため、地域の合意が得られない申請のハーダルが高いことから、取組が遅くなっています。	12	5	42%	遅れ・未達成	次年度の実施に向けた準備を進めている地域もあるが、認定による標準化のハーダルが高いことから、取組が遅くなっています。	15	R6年度	5	33%	遅れ・未達成	認定による標準化のハーダルが高いことから、取組が遅くなっています。
(28)小水力発電出力の合計(累 計)	kW	1,927	R2年度	2,060	1,927	94%	概ね達成	農業水利施設を活用して小水力発電施設の導入を計画している民間事業者に対して、導入に向けた技術機関との調整と開催講習について指導・助言等を行なう。目標は達成。	2,240	1,927	86%	概ね達成	農業水利施設を活用して小水力発電施設の導入を計画している民間事業者に対して、導入に向けた技術機関との調整と開催講習について指導・助言等を行なう。目標は達成。	2,438	2,176	89%	概ね達成	農業水利施設を活用して小水力発電施設の導入を計画している民間事業者に対して、導入に向けた技術機関との調整と開催講習について指導・助言等を行なう。目標は達成。	2,573	R6年度	2,489	97%	概ね達成	農業水利施設を活用した小水力発電施設について、農業水利施設による技術指導を推進したほか、民間発電事業者に対して導入に向けた調整等を進めた結果、目標は概ね達成。
(29)木質バイオマス供給量(開 拓)	t	202	R1年	227	182	80%	遅れ・未達成	R2にコロナの影響で木材の需給に停滞し、木材製品が販賣停止となり、資源を確保するため、導入に向けた技術機関との調整と開催講習について指導・助言等を行なう。目標は未達成。	240	179	75%	遅れ・未達成	ウッドチップにより、製材用、集成材用の木質農産物が減らしきことで、木質バイオマスの供給が微減したことにより、目標は未達成。	252	206	82%	概ね達成	木質バイオマス施設の需要に対応するため、要素生産量が増加したことにより、目標は概ね達成。	265	R6年	201	76%	遅れ・未達成	災害等の影響で要素生産量が減少したことにより、木質バイオマス用木質の供給量が減ったことから、目標は未達成。
(5)環境保全型農業																								
(30)特別栽培農産物認証面積	ha	14,800	R1年度	15,600	14,626	94%	遅れ・未達成	制度認証会員の開拓・環境保全等の認証の適用候補地に登録するが、特別栽培認証面積の増加には至らず、目標は未達成。	16,000	14,555	91%	遅れ・未達成	認証制度認証会員の開拓・環境保全等の認証の適用候補地に登録するが、特別栽培認証面積の増加には至らず、目標は未達成。	16,400	14,633	89%	遅れ・未達成	認証制度認証会員の開拓・環境保全等の認証の適用候補地に登録するが、特別栽培認証面積は前年度より増加したが、目標は未達成。	16,800	R6年度	14,667	87%	遅れ・未達成	認証制度認証会員の開拓・環境保全等の認証の適用候補地に登録するが、特別栽培認証面積は前年度より増加したが、目標は未達成。
(31)国際GAP認証取得件数 (累計)	件	36	R1年度	38	44	116%	達成	認証取得に係る費用について、国外交付金を活用したこと、現地の農民事業者による「家」の指導があり、取得の増加に結びつき、目標は達成。	42	45	107%	達成	認証取得を務める研修会を開催し、また、審査費用等について交付金を活用したこと、更に現地の農民事業者による「家」の指導があり、取得の増加に結びつき、目標は達成。	46	50	109%	達成	認証取得を務める研修会を開催し、また、審査費用等について交付金を活用したこと、更に現地の農民事業者による「家」の指導があり、取得の増加に結びつき、目標は達成。	50	R6年度	52	104%	達成	認証取得を務める研修会を開催し、また、審査費用等について交付金を活用したこと、更に現地の農民事業者による「家」の指導があり、取得の増加に結びつき、目標は達成。
(32)堆肥の施用面積	ha	3,473	R4年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—												
基本戦略3 魅力ある稼げる農林水産業の追求																								
(6)土地利用型作物																								
(33)「つや姫」の相対取引価格 の全国順位	位	2	R2年	2	2	100%	達成	高品質・食味味の安定生産を図りながら、トップブランドとしての販路確立に向けての取組・PR活動を重視することで、目標は達成。	2	2	100%	達成	高品質・食味味の安定生産を図りながら、トップブランドとしての販路確立に向けての取組・PR活動を重視することで、目標は達成。	1	2	—	遅れ・未達成	高品質・食味味の安定生産や「つや姫」の評価の高さによる上位に位置する取組・PR活動を重視したこと、「つや姫」は全国トップブランドとしての地位を確立しているものの、目標は未達成。	1	R6年	未公表	—	—	高品質・食味味の安定生産や「つや姫」の評価の高さによる上位に位置する取組・PR活動を重視したこと、「つや姫」は全国トップブランドとしての地位を確立しているものの、目標は未達成。
(34)「雪若丸」の全国認知度	%	33	R2年	60	31.0	52%	遅れ・未達成	テレビCMの制作・放映、SNSを活用した情報収集やキーワードへの農業を行なうが、海外での認知度も伸び悩み、目標は未達成。	80	34.5	43%	遅れ・未達成	テレビCMの制作・放映、SNSを活用した情報収集やキーワードへの農業を行なうが、認知度は上昇しているものの、目標は未達成。	80	43.7	55%	遅れ・未達成	テレビCMを持ったクロスマディアプロモーション等の展開により、徐々に認知度が向上しているものの、目標は未達成。	80	R6年	44.9	56%	遅れ・未達成	テレビCMを持ったクロスマディアプロモーション等の展開により、徐々に認知度が向上しているものの、目標は未達成。
(35)「生産の自安」の範囲内にお ける主食用米生産	%	100	R2年	100	100	100%	達成	関係機関・団体が連携して慎重に「生産の自安」を設定するなどして、その自安に沿った生産をオール山形で実現したことを、目標は達成。	100	100	100%	達成	関係機関・団体が連携して慎重に「生産の自安」を設定するなどして、その自安に沿った生産をオール山形で実現したことを、目標は達成。	100	100	100%	達成	関係機関・団体が連携して慎重に「生産の自安」を設定するなどして、その自安に沿った生産をオール山形で実現したことを、目標は達成。	100	R6年	100	100%	達成	関係機関・団体が連携して慎重に「生産の自安」を設定するなどして、その自安に沿った生産をオール山形で実現したことを、目標は達成。
(36)大豆「里のほほえみ」「シユ ウリュウ」作付面積拡大	ha	2,654	R1年	2,800	2,589	92%	遅れ・未達成	各地に普及を図り、研究会等を通じた技術の普及と准農業化等を実施した。一部は飼料米等への転換が進んだことから、生産量は減少傾向にどんない、目標は未達成。	3,000	2,792	93%	概ね達成	各地に普及を図り、研究会等を通じた技術の普及と准農業化等を実施したことから、対象品目の作付は拡大し、目標は概ね達成。	3,200	2,834	89%	概ね達成	各地に普及を図り、研究会等を通じた技術の普及と准農業化等を実施したことから、対象品目の作付は拡大し、目標は概ね達成。	3,500	R6年	未公表	—	—	各地に普及を図り、研究会等を通じた技術の普及と准農業化等を実施したことから、対象品目の作付は拡大し、目標は概ね達成。
(37)そば「山形BW5号」作付面 積拡大	ha	79	R1年	100	85	85%	概ね達成	重点品種として県内各地域の展示は設置を継続し、普及を進めることにより、目標は達成。	120	96	80%	概ね達成	重点品種として展示は設置を継続し、普及を進めることにより、面積は増加して目標は概ね達成。	140	122	87%	概ね達成	重点品種として展示は設置を継続し、普及を進めることにより、面積が増加して目標は概ね達成。	160	R6年	未公表	—	—	重点品種として展示は設置を継続し、普及を進めることにより、面積が増加して目標は概ね達成。
(7)果樹																								
(38)さくらんぼ産出額	億円	351	H26~30 年平均	353	319	90%	遅れ・未達成	4月の露霜害と開花期の天候不良のため収穫量の減少により目標は未達成。	355	378	106%	達成	収穫量が前年より増加し、販売単価が高水準で推移したため目標は達成。	357	378	106%	達成	収穫量が前年より増加し、目標を達成。	360	R6年	未公表	—	—	収穫量が前年より増加し、目標を達成。
(39)西洋なし産出額	億円	56	H26~30 年平均	56	58	104%	達成	4月の露霜害で収穫量が減少したが、販売単価が高かったことにより目標は達成。	57	66	116%	達成	収穫量が前年より増加し、販売単価が高水準で推移したため目標を達成。	57	60	105%	達成	収穫量は夏季の高温少雨等の影響のため大きく述べたが、販売単価が高水準であったため、目標は達成。	58	R6年	未公表	—	—	収穫量は夏季の高温少雨等の影響のため大きく述べたが、販売単価が高水準であったため、目標は達成。
(40)りんご10a当たり収穫量	kg/10a	2,020	H27~R1 年平均	2,060	1,530	74%	遅れ・未達成	4月の露霜害と開花期の天候不良のための収穫量減少により目標は未達成。	2,100	1,990	95%	遅れ・未達成	作柄は概ね平年並みであったが、一部地域で露害による減収が見られた。	2,150	1,500	70%	遅れ・未達成	夏の高湿・雨による早生・中途品種を中心に、日焼けや黒ずみ等の理害が発生したことで収量が減少となり、目標は未達成。	2,200	R6年	1,670	76%	遅れ・未達成	一部の地域で主要品種である「ふじ」の早生が多く、収量が不足したことより、夏の高湿・雨の影響で早生・中途品種を中心に日焼け果が発生したため、目標は未達成。
(41)ぶどう産出額	億円	108	H26~30 年平均	114	148	130%	達成	4月の露霜害のため収穫量が減少したが、高単価の大粒種の增加により目標は達成。	121	137	113%	達成	収穫量は昨年や下回ったが、高単価の大粒種の増加により目標は達成。	128	139	109%	達成	収穫量は昨年や下回ったが、高単価の大粒種の増加により目標は達成。	135	R6年	未公表	—	—	収穫量は昨年や下回ったが、高単価の大粒種の増加により目標は達成。
(42)もも産出額	億円	29	H26~30 年平均	30	48	160%	達成	大玉の中生品种の導入が進み栽培面積が増加し、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成。	32	47	147%	達成	大玉の中生品种の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成。	34	48	141%	達成	大玉の中生品种の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成。	36	R6年	未公表	—	—	大玉の中生品种の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成。
(43)かき10a当たり収穫量	kg/10a	880	H27~R1 年平均	880	720	82%	遅れ・未達成	4月の露霜害による若葉数の減少のため目標は未達成。	910	886	97%	概ね達成	奇形果・くぼみ果の発生が多く、摘葉で対応したことから若葉数がやがて少なく目標は未達成。	940	741	79%	遅れ・未達成	奇形果・くぼみ果の発生が多く、摘葉で対応したことから若葉数がやがて少なく、目標は未達成。	1,000	R6年	955	96%	概ね達成	奇形果が平年並みやや多く、美果化が良好であったことから、目標は概ね達成。
(44)すもも産出額	億円	8	H26~30 年平均	8	10	125%	達成	大玉の中生品种の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成。	9	10	111%	達成	大玉の中生品种の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成。	9	8	89%	概ね達成	大玉の中生品种の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成。	10	R6年	未公表	—	—	大玉の中生品种の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成。
(8)野菜・花き																								
(45)えだまめ産出額	億円	49	R2年	50	47	94%	遅れ・未達成	生育が遅延し経過し、生産量が前年上回ったものの、収穫が終了して地元で販売して販売単価の高さで販売価値が高いため、目標は未達成。	51	40	78%	遅れ・未達成	生育が遅延し経過し、生産量が前年上回ったものの、収穫が終了して地元で販売して販売単価の高さで販売価値が高いため、目標は未達成。	52	36	69%	遅れ・未達成	生育が遅延し経過し、生産量が前年上回ったものの、収穫が終了して地元で販売して販売単価の高さで販売価値が高いため、目標は未達成。	53	R6年	未公表	—	—	生育が遅延し経過し、生産量が前年上回ったものの、収穫が終了して地元で販売して販売単価の高さで販売価値が高いため、目標は未達成。
(46)高収益野菜(トマト、メロン、 きゅうり)の産出額	億円	164	H26~30 年平均	172	182	106%	達成	少ないところについては、生産と栽培管理の体制などといった地域固有により、栽培面積が増加しているため、目標は達成。	180	176	98%	概ね達成	少ないところについては、生産と栽培管理の体制などといった地域固有により、栽培面積が増加しているため、目標は達成。	188	172	91%	概ね達成	少ないところについては、生産と栽培管理の体制などといった地域固有により、栽培面積が増加しているため、目標は達成。	197	R6年	未公表	—	—	少ないところについては、生産と栽培管理の体制などといった地域固有により、栽培面積が増加しているため、目標は達成。
(47)土地利用型野菜(アスラガ 豆、ねぎ、にら)の産出額	億円	54	H26~30 年平均	59	64	108%	達成	アスラガ豆などについては、共通栽培地帯の整備などにより、栽培面積が増加しているため、目標は達成。	64	66	103%	達成	アスラガ豆などについては、共通栽培地帯の整備などにより、栽培面積が増加しているため、目標は達成。	69	65	94%	概ね達成	アスラガ豆などについては、共通栽培地帯の整備などにより、栽培面積が増加しているため、目標は達成。	75	R6年	未公表	—	—	アスラガ豆などについては、共通栽培地帯の整備などにより、栽培面積が増加しているため、目標は達成。
(48)花き産出額	億円	70	H26~30 年平均	74	60	81%	遅れ・未達成	燃油価格の高騰等の影響を受け、ばら・トルコざきゅうなど主要花きの生産が減少しており、目標は未達成。	77	70	91%	概ね達成	燃油価格の高騰等の影響を受け、ばら・トルコざきゅうなど主要花きの生産が減少しており、目標は未達成。	80	70	88%	概ね達成	燃油価格の高騰等の影響を受け、ばら・トルコざきゅうなど主要花きの生産が減少しており、目標は未達成。	83	R6年	未公表	—	—	燃油価格の高騰等の影響を受け、ばら・トルコざきゅうなど主要花きの生産が減少しており、目標は未達成。
(49)やまとが方式次世代施設園芸 導入組織の数	か所	4	R2年度	5	5	100%	達成	ICF環境ミニクリーン装置、農業用の自動取扱装置などを導入したところが平年並みとなりましたが、次世代型施設園芸の導入が増加し、目標は達成。	6	6	100%	達成	ICF環境ミニクリーン装置、農業用の自動取扱装置などを導入したところが平年並みとなりましたが、次世代型施設園芸の導入が増加し、目標は達成。	7	6	86%	概ね達成	ICF環境ミニクリーン装置、農業用の自動取扱装置などを導入したところが平年並みとなりましたが、次世代型施設園芸の導入が増加し、目標は概ね達成。	8	R6年度	7	88%	概ね達成	ミスト発生装置等を導入した方式次世代施設園芸の導入が増加し、目標は概ね達成。

No.	評価指標(KPI)	単位	現状 基準 年・年度	R3 目標	R3年 実績	達成率	達成度	R3 達成・未達成の理由	R4 目標	R4年 実績	達成率	達成度	R4 達成・未達成の理由	R5 目標	R5年 実績	達成率	達成度	R5 達成・未達成の理由	最終 目標	年・年度	R6年 実績	達成率	達成度	R6 達成・未達成の理由	
(75) JAS製品等出荷量(木材)	千m ³	77	H30年	92	95	103%	達成	JAS認定取得支援の結果、JAS認定工場の増加やJAS成材工場の増設に伴う出荷量の増加により、目標は達成。	96	82	85%	概ね達成	大手材木加工場等で材質出荷量減に伴い減少したが目標は概ね達成	98	76	78%	遅れ・未達成	建設用材の工事数が減少し、それに伴い製材品の需要が伸びなかつたため、目標は未達成	100	R6年	76	76%	遅れ・未達成	建設用材の需工数が減少し、それに伴い製材品の需要が伸びなかつたため、目標は未達成	
⑮県産木材の利用促進・特用林地の振興																									
(76) 民間施設の木造化率	%	37	R1年度	40	39.2	98%	概ね達成	県産木材を使用した店舗、看板所等の新規民間施設への補助金の交付など、民間施設の木造化率に達成に寄り目標は達成。	43	35.3	82%	遅れ・未達成	「ウッドジョブ」という製材機の入手が困難となり、木造建築物件数が減少したため、目標は未達成。	46	35.4	77%	遅れ・未達成	「ウッドジョブ」の影響は収まりつつあるが、資材高騰が続いた、木造建築物件数が減少したため、目標は未達成。	50	R6年度	33.8	68%	遅れ・未達成	資材高騰の影響等により、木造建築物件数が減少したため、目標は未達成。	
(77) 木質バイオマス供給量	千t	202	R1年	227	182	80%	遅れ・未達成	R1年にかけた影響で木質バイオマス供給量、木材所持量が減少する一方で、多流木在庫を抱え、R3の供給量が減ったことにより、目標は未達成。	240	179	75%	遅れ・未達成	「ウッドジョブ」という木質バイオマスが導入され製材率、資材高騰による原木の供給量が減ったことから、目標は未達成。	252	206	82%	概ね達成	木質バイオマス施設の需要に対応するため、素材生産量が増加したことにより、目標は概ね達成。	265	R6年	201	76%	遅れ・未達成	災害等の影響で素材生産量が減少したことにより、木質バイオマス用原木の供給量が減ったことから、目標は未達成。	
(78) 山菜・きのこの生産量	t	10,400	R1年	10,600	8,995	85%	遅れ・未達成	生産基盤整備の支援、生産者研修会、栽培技術指導など、生産振興を図ったものの、多雨のノロゾ類価格は下落傾向にあることや地元競争の激化により、目標は未達成。	10,700	8,688	81%	遅れ・未達成	生産基盤整備の支援、生産者研修会、栽培技術指導など、生産振興を図ったものの、地元競争やコロナ禍による外食需要の減少などから、目標は未達成。	10,900	7,641	70%	遅れ・未達成	生産基盤整備の支援、生産者研修会、栽培技術指導など、生産振興を図ったものの、地元競争やコロナ禍による外食需要の減少などから、目標は未達成。	11,000	R6年	7,144	65%	遅れ・未達成	災害による生産者の営業や生産停止により、きのこの生産量が減少したことから、目標は未達成。	
基本戦略5 水産業の成長産業化																									
(Ⅹ)海面漁業																									
(79) 経営体あたりの海面漁業生産額	万円	695	H30年	772	617	79.9%	遅れ・未達成	令和3年は全国的に水産資源(サケ、イカなど)が不足し、本県においても主要な魚種であるスルメイカ(サケ、タラ、ハタ)の漁獲量が大きく減少したため、目標は未達成。	798	621	78%	遅れ・未達成	本県の主力魚種であるスルメイカ、ハタハタの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	824	630.8	77%	遅れ・未達成	本県の主力魚種である、ハタハタ、サケの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	850	R6年	未公表				
(80) ブランド魚種の平均単価	円/kg	2,529	H30年	2,877	3,099	108%	達成	R3については、ズワイガニの単価が大きく伸びたことが全体の単価を押し上げた。	3,051	2,873	94%	概ね達成	ブランド魚種のうち、サワラの単価が下がったものの、トラフグ、ズワイガニが大きく伸びたため、目標は概ね達成。	3,225	3,309	103%	達成	ブランド魚種のうち、サワラの単価が下がったものの、トラフグ、ズワイガニが大きく伸びたため、目標は概ね達成。	3,400	R6年	未公表				
(Ⅺ)内水面漁業																									
(81) 「ニジクラク」の成魚出荷頭数	尾	50	R1年度	630	30	5%	遅れ・未達成	不適切な稚苗の混入と魚病発生による生産減	5,600	400	7%	遅れ・未達成	成育過程での魚病の発生と豪雨災害による流出による生産減。	12,000	2,790	23%	遅れ・未達成	高温と豪雨災害による流出による生産減。	12,000	R6年度	未公表				
(Ⅻ)県農産物の利用拡大																									
(82) 県農産物の県内内部における流通割合(市場内流通額)	%	6.3	R1年	8.0	4.2	53%	遅れ・未達成	水産資源の減少とコロナ禍による県内需要の減じる出荷減	9.0	3.7	41%	遅れ・未達成	県内外との競争、加工品の需要量は増えたものの、漁獲量の減少により、鮮魚と冷凍魚の取扱量が減少したため、目標は未達成。	10.0	3.5	35%	遅れ・未達成	スマルカ(カキ冷凍)の水揚げが減少したため、目標は未達成。	11.0	R6年	未公表				
(Ⅼ)水域環境の確保・活用																									
(83) 游遊証の発行枚数	枚	11,199	R1年度	12,200	10,379	85%	遅れ・未達成	コロナ禍による移動制限の影響	13,480	9,116	68%	遅れ・未達成	内部船を中心に令和4年8月豪雨の影響で暖冬によるコワサギ釣りの不振により遊遊者が減少したため、目標は未達成。	14,240	8,935	63%	遅れ・未達成	コロナによる制限は解除されたものの、夏は酷暑により釣り人回復せず、また暖冬によりコワサギ釣りが不振となり、目標は未達成。	15,000	R6年度	未公表				